

今日のみことば

□ 9月16日(日) エステル 5章

モルデカイに対するハマンの怒りはつのる一方であった。ハマンは、モルデカイを柱にかけて殺すことを決めました。彼はそのための絞首台を立てさせました。

□ 9月17日(月) エステル 6章

王は眠れない夜を過ごした。彼は記録の書を読むように求めた。そこでモルデカイが王暗殺計画を知らせたこと。その報酬を与えられていないのを知り、その処理をハマンに命じた。

□ 9月18日(火) エステル 7章

エステルはハマンが、彼女と彼女の民族を殺そうとしていることを王に話した。ハマンはモルデカイのために立てた絞首台でつるされた。

□ 9月19日(水) エステル 8章

王はユダヤ人を殺す命令を変えることはできなかった。その代わりに新しい命令を与えて、ユダヤ人が力を合わせて、自分たちを守れるようにした。

□ 9月20日(木) エステル 9章

ユダヤ人を殺すようにとの命令が実行に移されたとき、ユダヤ人と他の民は、ともに団結して、ユダヤ人の敵を打ち破りました。

□ 9月21日(金) エステル 10章

神に召された者を、神は必ず守られる。主により頼むことこそ、本当の安全保障なのである。この書には神の名は一度も出てこないが、その背後にあって一切を導いてくださる。

□ 9月22日(土) ヨブ 1章

ヨブという非常に敬虔な実在の人物をおそった一大試練のドラマです。サタンはヨブの家族、持ち物すべてを奪って神に対する愛を試そうとした。ヨブはそれでも神を愛し、信頼をした

ろ ぼ No. 1884
2018年 9月16日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

詩篇72:15

王が命を得ますように。彼にシェバの黄金がささげられますように。彼のために人々が常に祈り／絶え間なく彼を祝福しますように。

今日は、立川バプテスト教会がキリストの福音を、ここで語り、歩み始めた記念の日です。神さまが祝福の基をここに定められて宣教が始まりました。この教会で最初の結婚式は仲川夫妻でした。本当に人間の想いを超えて働かれるお方を思い出させていただくのでした。私たちはその思いをしっかり受け止めることが出来ているだろうか。それから56年を経て何が起こってきたか。それは今、私たちが見ているものがそれです。何とかして、キリスト・イエスの福音を伝えたいと願って働いてきました。しっかりこの私たちに、神さまのご愛を伝えたい、その思いがこの教会を神さまが建てられたのでした。

ダビデはその王国が、神さまの豊かな顧みの中にあること願ひ、しっかり息子ソロモンが受け継いで、神の祝福に満ちた王国であってほしいと願ひ祈る言葉を、この詩編に私たちは聞かせていただくのですが、その切なる祈りは、私たちの祈りではなかろうかと聞かせていただくのです。

私たちは、十分に神さまのみ心をくみ取ることができたか、心もとない私たちです。教会学校で聖書教育を通して神さまの言葉を聞かせていただく中で、特にいま私たちは旧約時代の人々の歩みを聞かせていただいています。神が選ばれた民イスラエルに注いでくださった、神さまの豊かな慈しみと愛を覚えさせていただいています。それは神さまと一緒にいて下さるこ

とによって経験していることでした。喜びの時はもちろんのこと、悲しみや苦悩の中でも、彼らは神さまを見てきました。

それがキリスト教会であり、それが教会の基点です。イエスが「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」(マタイ11:28)と言われた言葉は、皆さんの心から離れることがない言葉ではありませんか。私はこの立川バプテスト教会が、そのイエスの言葉を受け継いでいくことができたか、と問われるなら、正直心もとなくなってきました。私はやっぱり人間の知恵を頼りにしていることを、あちこちで突きつけられてばかりですが、この詩編72を読ませていただきながら、一つのことに気づかせられました。尾山令仁先生は違った面からでしたが、この詩編は二度読むとよいと勧められました。私はここで、しっかりと見上げるべき方を、祈りをささげる方に、しっかりと祈っているかと尋ねられるのでした。万物の主、すべてのものの創造者であるお方を、しっかりと見つめることができますか。

祈りは、人々を救う救い主の到来へと、祈りは続けられますイエスが始められた救いのご計画が実現されますように、との祈りへと向かわさせられます。この祈りは目前の王が、民の統治者、救い主としてしっかりとその業を行うことができるようにと祈りますが、それはやがて到来されるキリスト・イエスへの祈りであることを知るのでした。

「王が命を得ますように。彼にシェバの黄金がささげられますように。彼のために人々が常に祈り／絶え間なく彼を祝福しますように。」(72:15)

聖書の学び・祈祷会

士師記16:18-31

サムソンの最後

サムソン物語のクライマックスです。サムソンは生まれながらのナジル人です。彼自身がどこまでそのことを自覚していたかは不明ですが、神が捕らえられた人物です。神は彼を顧みてくれました。

肉欲に生きるサムソンは、ナジル人の誓願にそむくことになり、彼に与えられていた神の力は去りました。そのことを理解しなかったサムソンはペリシテ人に捕らえられ、イスラエルの勇士の悲劇はここに極まりました。しかしこの大失敗の後サムソンは、再びナジル人の誓願を新しくしました。髪の毛は再び伸び始めました。最後の場面ではサムソンは再び主のみ名を呼びました。

サムソンはペリシテ人の満員の家の二本柱に両手をかけつつ祈って力を入れると家は倒れ、ペリシテ人はみんな死んでしまいました。神が勝利を与えてくださったのです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ヨハネ6:32-40

いのちのパン